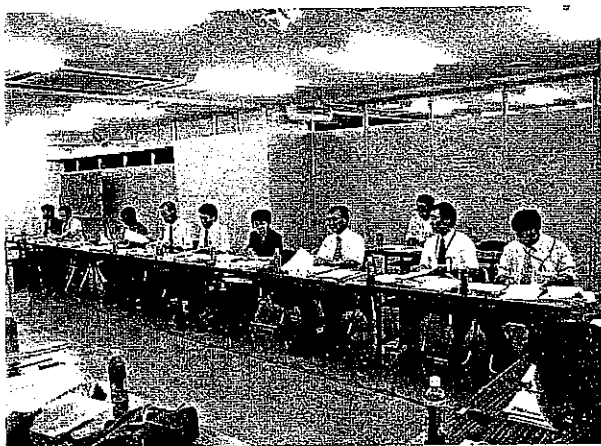
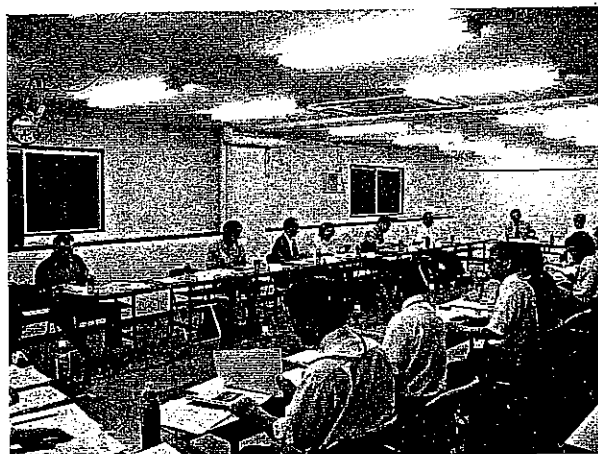


平成15年 7月30日 (水)

第八回石神井川流域連絡会



平成15年 7月30日 (水) PM6:30
から『第八回石神井川流域連絡会』が、
2時間半にわたり開催されました。

会議には、都民委員7名（北区、板
橋区、練馬区、西東京市、小平市）と
行政委員9名が参加しました。

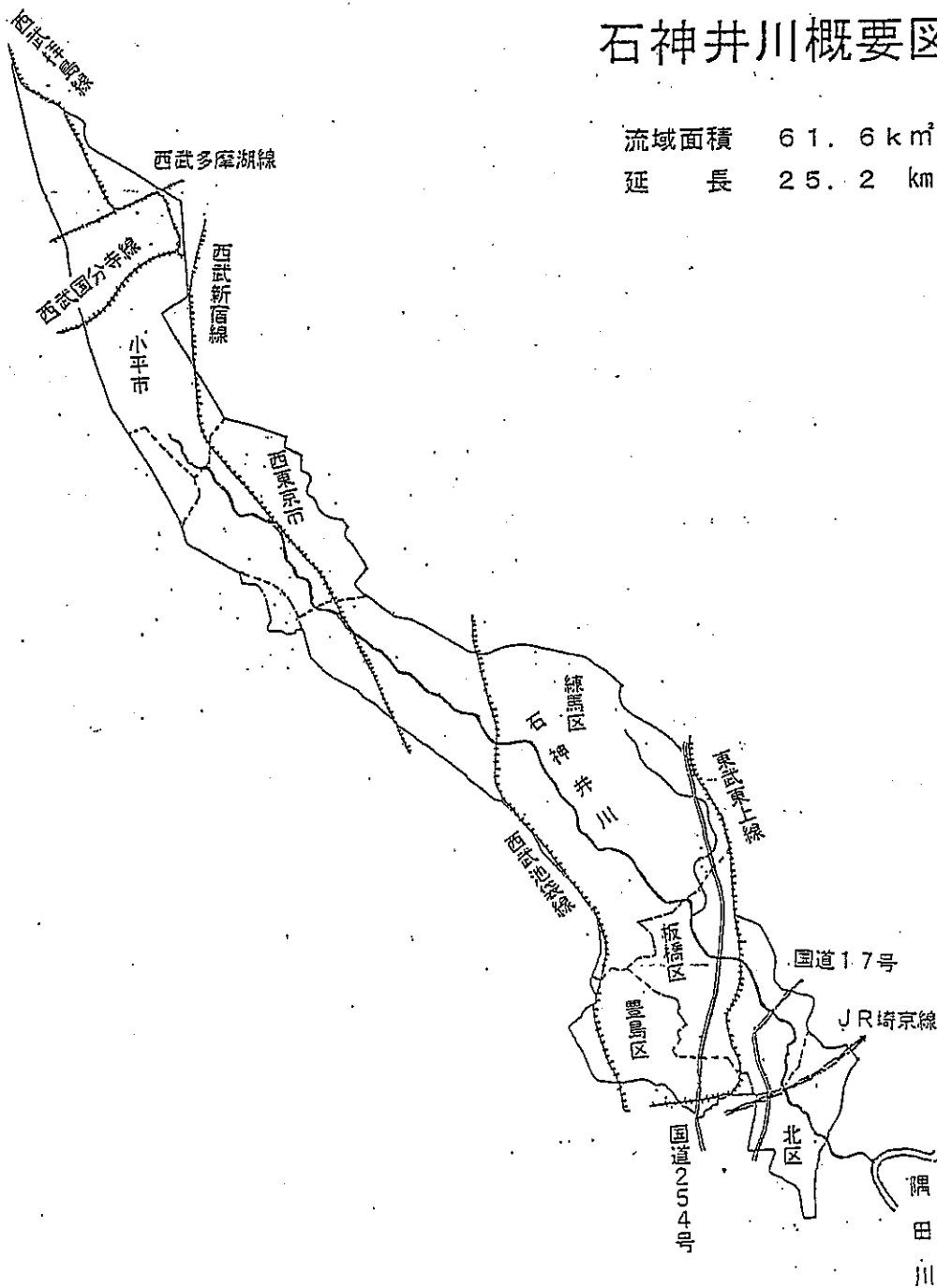
当日の会議は、石神井川に係わる、河川整備計画(案)の一部についての
諸提案及び、第1期の最終回を迎えての説明がなされました。

連絡会の目的

石神井川流域連絡会は、都民と行政が共通認識に基づき協働・連携して地域に生きた親しめる川づくりを進めて行くため、流域の住民や、区市及び都が河川に係わる情報や意見の交換・提案を行うことを目的としています。

石神井川概要図

流域面積 61.6 km²
延長 25.2 km



石神井川流域連絡会 委員名簿

平成15年7月30日現在

委 員					
都 民 委 員	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 北 区 北 区 北 区 北 区 北 区 板橋区 練馬区 練馬区 練馬区 西東京市 小平市 小平市 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 江 原 秀 典 清 水 孝 彰 遠 山 隆 久 山 田 久 司 山 本 洋 司 田 村 元 雄 秋 山 榮 子 海 野 幸 雄 三 浦 清 喜 吉 村 理 司 後 藤 英 司 羽 鳥 謙 三 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">都 民 委 員 計</td> <td style="text-align: center;">12名</td> </tr> </table>	北 区 北 区 北 区 北 区 北 区 板橋区 練馬区 練馬区 練馬区 西東京市 小平市 小平市	江 原 秀 典 清 水 孝 彰 遠 山 隆 久 山 田 久 司 山 本 洋 司 田 村 元 雄 秋 山 榮 子 海 野 幸 雄 三 浦 清 喜 吉 村 理 司 後 藤 英 司 羽 鳥 謙 三	都 民 委 員 計	12名
北 区 北 区 北 区 北 区 北 区 板橋区 練馬区 練馬区 練馬区 西東京市 小平市 小平市	江 原 秀 典 清 水 孝 彰 遠 山 隆 久 山 田 久 司 山 本 洋 司 田 村 元 雄 秋 山 榮 子 海 野 幸 雄 三 浦 清 喜 吉 村 理 司 後 藤 英 司 羽 鳥 謙 三				
都 民 委 員 計	12名				
行 政 委 員	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 北区建設部河川公園課長 板橋区土木部計画課長 練馬区土木部建設課長 " 土木部長 西東京市都市整備部下水道課長 小平市環境部下水管理課長 " " 東京都環境局自然環境部水環境課長 " 環境改善部計画課長 東京都建設局河川部副参事(中小河川計画担当) " " 東京都第四建設事務所工事第二課長 東京都第六建設事務所副所長兼工事課長 東京都北多摩南部建設事務所工事第二課長 " " 東京都北多摩北部建設事務所工事第二課長 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 清 水 英 男 老 月 勝 弘 ※浅 井 葉 子 (前任黒田叔孝) 本 橋 久 雄 ※清 水 孝 彦 (前任畠山敏郎) ※中 村 真 一 (前任穂積憲重) ※米 沢 彰 三 (前任東野 寛) 伊 藤 浩 之 浦 山 齐 ※宮 崎 壽 一 (前任新井敏男) 青 木 浩 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">行 政 委 員 計</td> <td style="text-align: center;">11名</td> </tr> </table>	北区建設部河川公園課長 板橋区土木部計画課長 練馬区土木部建設課長 " 土木部長 西東京市都市整備部下水道課長 小平市環境部下水管理課長 " " 東京都環境局自然環境部水環境課長 " 環境改善部計画課長 東京都建設局河川部副参事(中小河川計画担当) " " 東京都第四建設事務所工事第二課長 東京都第六建設事務所副所長兼工事課長 東京都北多摩南部建設事務所工事第二課長 " " 東京都北多摩北部建設事務所工事第二課長	清 水 英 男 老 月 勝 弘 ※浅 井 葉 子 (前任黒田叔孝) 本 橋 久 雄 ※清 水 孝 彦 (前任畠山敏郎) ※中 村 真 一 (前任穂積憲重) ※米 沢 彰 三 (前任東野 寛) 伊 藤 浩 之 浦 山 齐 ※宮 崎 壽 一 (前任新井敏男) 青 木 浩	行 政 委 員 計	11名
北区建設部河川公園課長 板橋区土木部計画課長 練馬区土木部建設課長 " 土木部長 西東京市都市整備部下水道課長 小平市環境部下水管理課長 " " 東京都環境局自然環境部水環境課長 " 環境改善部計画課長 東京都建設局河川部副参事(中小河川計画担当) " " 東京都第四建設事務所工事第二課長 東京都第六建設事務所副所長兼工事課長 東京都北多摩南部建設事務所工事第二課長 " " 東京都北多摩北部建設事務所工事第二課長	清 水 英 男 老 月 勝 弘 ※浅 井 葉 子 (前任黒田叔孝) 本 橋 久 雄 ※清 水 孝 彦 (前任畠山敏郎) ※中 村 真 一 (前任穂積憲重) ※米 沢 彰 三 (前任東野 寛) 伊 藤 浩 之 浦 山 齐 ※宮 崎 壽 一 (前任新井敏男) 青 木 浩				
行 政 委 員 計	11名				
合 計					
23名					

※: 人事異動による新規委員

事務局	東京都第四建設事務所 工事第二課 工務係
住所	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-36-2
電話	03-5978-1734 担当: 伊 藤(正)、佐 藤

第八回 石神井川流域連絡会 会議要旨

日 時 平成 15 年 7 月 30 日 (水) 18 : 30 ~
場 所 第 四 建 設 事 務 所 C 会 議 室
出席者 委員 16 名 傍聴人 1 名 全 17 名

1. 開 会

2. 報告事項-----行政委員の変更について-----5 名の変更があり、承認されました。

3. 議 事

1) 石神井川流域連絡会「第 I 期のまとめ」(案) について

①はじめに

②「石神井川河川整備計画 (案)」策定までの流れ

③「石神井川河川整備計画 (案)」策定の内容について

④流域連絡会 (第 I 期) に参加しての感想等

2) 第 II 期石神井川流域連絡会の開催予定について

3) 石神井川及び白子川流域浸水予想区域図について

[質疑応答]

(都民委員) 今まで降水量という、雨が降った量ですね。ここで 50mm とか 70mm とか言っていますけれども、今まで過去 50 年か 100 年かわかりません。その間で、どのくらいの降雨量の推移がありましたか。

(事務局) 大手町の気象庁は相当観測を行っています。例えば 1 時間雨量の観測で毎年---

(都民委員) こういう資料を作成するとき、過去の 50mm とか 70mm の降雨量を参考にすると思うんですよ。それと、都市計画と、河川整備計画を別個に考えることはできないでしょう。私は、毎回都市計画との絡み合いをどうするんですかと質問しても事務局は一向に答えようとしなないわけですよ。同じ降雨量でも 30 年前と今とは違うでしょうと言うんですよ。この資料の中で、練馬大橋の下流のところから豊島園までの区間に排水路があったでしょう。今、あれはなくなっている。何でそれを利用しようとしなないのですか。もう 1 つは、政府から首都移転という話が出ていたでしょう。

(座 長) 小橋のところから石川橋のところまで左岸側にバイパスをつくってました。それは本川の石川橋上流が 30mm の断面しかないときに、より洪水に対する規模アップを図ろうということで、昔、水路があった所に、管路を練馬区役所さんが入れたんです。双方を流すことで規模アップを図っていたのですが、50mm の改修が終了したところでその管路というのは多分、現在下水道幹線の一部

になっていると思います。河川の方では使っていないということです。

(事務局) 都市計画と河川計画の関係についてですが、例えば雨が流域内に降った時、どのぐらいの量が川に出てくるかという率がございまして、昔ですと3割から4割ぐらいでした。これを、調査した平成元年のときと比べますと、降った雨の半分、あるいは4割ぐらいが川に出てくるという結果が出ています。

ただ、将来的には流域の市街化というのは、5ページ目に流域の変遷ということを書かせていただいています。これは市街地面積率と言いまして、緑地を除いた面積が流域全体でどのくらいふえてきたのか。裏を返しますと、自然地と言われているところがどれだけ減ってきたのかということを示した図です。

これらは昭和の初期から現在に至るまでの市街化の変遷を書いたものです。平成5年当時が一番新しいデータですが、将来的にはこの市街化の率というのは90%、100%に限りなく近づくものとなります。それに伴って川に出てくる雨水の量は、昭和の初期に考えていたものより大分大きなものになるということで、実は石神井川の治水計画というのはさまざまな変遷をしてきました。

今の計画ができる前は1時間に30mmぐらいの水を流す断面でちょうどよかったのです。その後、流域の市街化が急激に進行してきたということで、今50mm、しかも降った雨の85%が将来的に出てくる。それぐらい流域の市街化というのは進むであろうという予測をもとに石神井川の治水計画を考えています。先ほどご質問にあった事に100%お答えができていのかどうか不安ですが、そういう意味のシミュレーションを行ったものが治水計画です。

(都民委員) そうしますと、今まで練馬区ぐらいまで都市化が進みましたよね。これから西東京さんや小平さんの都市開発が始まってくるでしょう。そうすると石神井川に流れる水の量も増えてくるんじゃないですか。ですから、そういう意味で私は都市計画と河川の拡幅工事をもう少し絡み合わせなければいけないでしょうということを申し上げているわけです。もう1つは、人口が減るという問題がありますね、50年先。100年近くなると日本の人口も5000万になるとか、マスコミが書いていますね。東京都だってこれから50年先はどのくらい人口が減ってくるだろうとかかね。そういう都市計画と人口とのかかわり合いと、河川の問題というのは、切り離しては考えられないと思います。

そういう意味で地域住民にもっと協力してもらうために、行政が地域住民に対して資料の提供というものについて、もう少しお考えになったらどうですかね。

(事務局) 引き続き頑張って検討していきたいと思います。

(都民委員) 資料8-2ですね。先ほど水質基準C類型というご説明がありまして、「コイ、フナ等が棲息できる水質である」というご説明がありました。見た目は、結構きれいな水で、魚がいるんだけど飲んだりはできないよと、そんなふうにした

らわかりやすいですね。そのような水ですか、C類型というのは。

(事務局) C類型というのは、コイ、フナがすめると書いてあります。

(都民委員) 例えば清流復活事業で千川上水が水を流しているところがありますね。コイが泳いでいて、水はきれいに見えますよね。

(事務局) 別の言い方もあります。工業用水に使う場合の等級で1級、2級、3級とありますが、工業用水の中では多分一番きれいだという書き方をしています。皆さんの飲む水のレベルまでの示し方はしていません。C類型というのは、飲むのには向きません。

(都民委員) 素人にわかりやすく言えば、一見きれいそうに見えまして、魚ぐらいいますと。コイなんて要するに汚染に強いわけでしょう。その程度の水ですというのがCなんですね、というふうに理解してよろしいですね。

(行政委員) 水環境のことですので、一言よろしいですか。環境基準というのは行政目標です。私ども東京都が目標とする水質で、C類型、BODで言うと5という数字は、コイ、フナはおろか、たくさんの魚が棲めます。現実には、この報告書中の生物関係のデータを見ましたけれど、かなりたくさんの魚が棲んでいますし最低限でもコイとフナが棲めます。見た目の水はすごくきれいです。それでよろしいですか。

(都民委員) はい、わかりました。

(都民委員) 別な事ですけども、資料8-1の方の「ご意見・ご提案」ですが、これはこの委員会の委員が出したものだけですか。それともホームページなどで一般の人のも入っているわけですか。

(事務局) はい。本委員会では25件いただいています。

(行政委員) 資料8-1の3/7の、整理番号16、17で右側の方に回答でアンダーラインが引いてあります。その、かぎ括弧の中の、「河川への湧水等の保全」これは、非常に結構だと思います。しかし、その後段の「地下鉄の滲出水の河川への導入」この部分について、実は我が環境局の中で漏洩防止指針という指導指針を持ってまして、原則漏洩させてはいけないという指導をしていますので、この表現については少し工夫を願います。これだと、地下鉄から、やむを得ず漏れちゃったものは使ってくださいよという立場ですので、何か地下鉄から水がわき出て、非常に期待するような誤解を一般の方に持たれてしまうとちょっと問題があるので、表現については工夫をお願いしたいと思います。

(事務局) 消すというのはなかなか難しい面もありますね。

(行政委員) いや、消さなくてもよいです。例えば、やむを得ず地下鉄から漏れ出た水とか。そういう工夫をお願いできればと思います。

(事務局) わかりました。

(都民委員) 先ほど水質のことをお話になった方がいらっしゃいましたが、昭和50年代

のころに練馬区の早宮に越してきて、石神井川から50m以内のところに住んでいましたときに、すごいユスリカがいっぱい出て、網戸にべったりと張りついて、洗濯物を干してもすごかったです。しかし、今そういうことは石神井川では起こっていないのでしょうか。

(都民委員) 私は今でも石神井川から50mくらいしか離れていないところに住んでいますが、シーズンになりますと起きますよ。

(行政委員) 現在、石神井川の水質についてはものすごくよくなっています。先ほどの昭和50年代、水の汚れを示すBODがありますが、これが最悪でして、例えば石神井川河口の豊石橋というところはBODが80を越えていました。こうなってくるとユスリカも棲めませんね。

(都民委員) 練馬区の行政の方にそう言われました。ユスリカが棲むだけよくなったと。

(行政委員) 次に、環状七号線の上流に台橋という橋がありますが、そこですと、51年ごろは40を越えて50近かったですね。そのもっと上流の溜漕橋、区と市の境界にある橋ですが、練馬区と、こちら側は西東京ですか、ここでもBODは20。この当時の石神井川は、ほとんどコイ、フナすら棲めない状況でした。その後、下水道の普及によってどんどん水質はよくなって、あるレベルにいくとユスリカが大発生します。神田川でも同じ状況になりましたし、ユスリカが多かったのは、大体20年から30年前ぐらいです。ちょうどユスリカがこれは棲み心地がいいなというぐらいの水質になると大発生するんですよ。さらに、現在の石神井川については、BODの年度平均値は豊石橋でいいますと4.2ですから、かなりきれいになっています。その当時に比べると10分の1以下ですね。20分の1ですか。

それで、この大きい方の資料—2のページが打ってある8ページをご覧くださいだけです。表2-2というのがありますね。ここで一番下から3つ目、「アカムシ」と書いてありますが、これはユスリカのことです。このデータを見ますと、小平の小金井公園で1匹取れているだけで、あとは全然出ていないですね。これは調査の季節が10月ですから、ユスリカが羽化した後のデータだと思います。本当は春調査するとユスリカの状況はよくわかります。羽化した後のデータなので何とも言えないのですが、BODの数字から見ますと、ユスリカが大発生するような水質よりもさらにきれいになっています。ですから今は、網戸にいっぱいという状況は余り起きないのではないかと思います。

(都民委員) 石神井川の水のにおいは非常に少なくなりました。私も子供エコクラブを案内してペットボトルに穴をあけて、川の水を採取すると、においはないし、大分水が透き通ってきました。これらについて、大人の方が関心が薄いのでむしろ大人社会が変わることによって子供が変わる。子供が変わると環境についても非常によくなるということがありますね。

(行政委員) ちょっと補足で、先ほどの8ページの表で、下から3つ目、アカムシはユスリカのことですが、そのさらに上にユスリカがまた出てくるんです。これは事務局で種名を整理された方がいいと思います。アカムシというのは、水生生物では標準和名——難しい言葉で申しわけないですけど、標準和名ではアカムシと使わないですから。

(事務局) 調査し整理いたします。

(行政委員) アダプト制度という用語ですが、資料8-1の3/7ページに出ています、それに対して本編の方ではこのように使いますというのが資料8-2のページ20の、右側の真ん中より下、に書いてあります。確認してもらいたんですけど、里親、養子という言葉で使っていますよね。かって、里親制度という言葉が頻繁に使っていたのですが、本当の里親をやっている方たちから、最近その用語は適切ではないという指摘があります。そこを少し調べて使ってください。解説レベルでは使っているのかもしれませんが。

(事務局) 確認して必要であれば適切な表現に変えたいと思います。

(都民委員) 8-1は、意見に対する直接的な回答は右側に対比して書いてあって、整備計画の言葉の中にどう盛り込むかというのは、8-2の中に内容が込められていますよ、という構造になっていると思います。

全体的には私は大きな反論というのはありませんし、私の意見も幾つか入れていただいていますので、非常にありがたいと思っております。

ただ、行政側のやることを褒めてばかりいると、後で文章になったときに嫌なやつだという感じになってきますので、意見だけははっきり言わせていただきます。この河川整備の第3章ですが、資料8-2のページ10、「河川整備計画の目標に関する事項」がありまして、東京の中小河川の将来像が出てきます。これはかなり重要な部分だと私は思っています。抽象的な表現ですけど、非常に重要な部分で、整備計画に対する精神みたいなものはここに書かれていると思って見ました。そこで、「様々な機能が集中する世界都市“東京”——世界都市かどうかは別として、巨大都市を支える基盤であるということによると思いますけれども、洪水などの災害から都民の生命や財産などを守る大きな役割を担っている、というふうに書いてあります。これは河川行政の方からの見方だと思います。河川行政をどこかでもう少し超えていかなくはない時期なのかなと思っていて、中小河川というのは、単に防災上の問題だけでなく、例えば環境面、それから地域住民のメンタルな面ですね。さらに言えばヒートアイランド対策みたいな、風の道になっているという指摘もありまして、そこら辺は遠慮せずに、河川は、こんなに大事だと踏み込んで書いていいのではないかと思います。したがって、総合的にいろいろな対策をとるんだけれども、「河川行政の方ではこうやります」という書き方をしているの

はないかと思えます。中小河川の意味合いはこの記述だとまだ小さいと思えますので、現在担っている河川の役割についても大きく広げて取り組んでもらいたい。この部分については加筆していただきたいと思っています。

それから、2つ目の意見ですけれども、8-2の6ページ。ずうっと書いてある第1節の下の方で「次期整備水準となる75mm/h r計画に位置づけられる施設の早期着手も望まれる」と書いてありますね。これは「施設」という書き方でよろしいでしょうか。施設といいますと、例えば調節池であるとか、河川の拡幅という話になると思いますが、現時点においては施設だけでなく、いろいろなソフト的なものも含むのではないかと思えます。そうすると、むしろ「施設」と言うよりは、「早期の対策への着手が望まれる」という方がより総合的な書き方になるのではないかと思えます。このままでは、河川行政の中だけでというようになっていまして、そのこと自体は必要だと思いますけれども、やはり現時点ではそこをもう少し拡張して考えていかないといけないと思います。と言いますのは、原案について意見を言わせていただいた中で感じたんですけれど、私の方でもちょっと誤解がありまして、75mm計画というのは、50mmの河川断面を1.5倍に広げるんだと。100mmというのと倍になり、とんでもないと思ったんです。そうではなくて、先ほどの説明でよくわかりましたけれども、ページ10の方でいわゆる流域対策やその他の施設も入れて、それらが75mm対策だということ。別に川を広げることだけじゃないという話はよくわかりました。

それはよく理解できましたけれども、ここで言われる施設というのは、逆に言うと誤解を招くというか、あるいはもうちょっと大きく踏み込んで、先ほど言った施策や対策、ソフト面も含めて実施しますよと言っていた方がいいのではないかと思えます。これについては例えば11ページなどでも同じ表現になっていますので、ここについても改められるものでしたらお願いしたいと思えます。

それから、3つ目ですけれども、資料8-1の4ページです。先ほど都民委員が言われたことは非常に重要なことだと私は思っておりまして、都市計画やまちづくりに対する研究がないというお話ですが、回答に対して、3行目で、「検討会では、河川・下水道の整備」云々というようなことを書いていますが、ハード対策に加えて、ハザードマップ、情報提供、防災体制などのソフト対策を進めていくことになっているわけです。しかし、この中でせっかく各省庁を集めて、都市型水害対策検討会を設置したのであれば、その中で、例えば、各自治体、あるいは東京都が取り組むまちづくりについても検討というんですか、素材にのせてよろしいのではないかと思えます。例えばまちづくりの中で雨水浸透を各自治体が頑張りますというようなことが盛り込まれれば非常に前進す

るわけで、私も都市計画と河川行政が乖離している状況というのは余りよくないと思います。ただ、これは8-1の方で具体的にどういう言葉で盛り込むのか、ちょっと難しいので、意見としてお聞きいただければ結構だと思います。

あと、評価の方ですけれども、肯定的に評価できることは、8-2の7ページに「正常流量について検討していく必要がある」と積極的に入れていただいたのは非常に大きいと思います。

それから、8-2の12ページの第1節の絵の上のところで、「地域住民の意見を聞きながら進めていく」と書いていただいたのは非常に大きなことだと思います。これは8-2の13ページの2)の下の方で「地域住民の意見を聞きながら緑化等に努めていく」というようなものもそうですし、8-2の20ページのアダプト制度の導入というものも非常に大きなことだと思います。

私はこのことについて非常に評価していますが、私自身の意見として、もう少し行政ばかりじゃなくて、住民側の責務ではないけれども、住民側の参加、役割分担みたいなものを書き込めるとなるといいなと思います。住民もやって下さいよという話ももっとも明記していいのではないかと思います。ただ、どういう表現で盛り込んでいいかわからないので、言葉だけで言わせていただきます。この8-2の20ページで言うと、下の方の「河川への湧水等の保全」の都合で、先ほど地下鉄の話が出ましたけれど、河川への湧水の保全というのが積極的に入ってきたのは非常に評価しております。

あと、1つ提案ですが、これはどこへ入れていいのかわからないのですが、雨水浸透に関する基礎研究というのは非常に大事だと思っていて、野川の方でも行っていらっしゃるということですが、データがそう簡単に出てくるものではないと思っています。例えば、家庭に何㎡の浸透枿を何個つけたら石神井川の被害はなくなったよというのはなかなか理論的に出てくる話ではないと思います。非常に膨大な時間とお金をかけないと出てこないデータだと思いますが、このような基礎研究についても行っていきますという言及がこの整備計画のどこかに盛り込まれるとよろしいのかなと思っています。例えば第6章、「総合的な治水対策の取り組み」の中で一番最後のところで「貯留浸透施設の設置を進め」となっていますが、その中でこのような基礎的な研究についても検討していきますという文言が入ればよいと思っています。

全体として、私はこの計画が非常に前進してと思っています。

(事務局) 盛り込めるところと、おさまりどころがありますので、今いただきました6項目につきまして、よく事務局の方で検討し、対応させていただきたいと思えます。

特に中小河川の役割を洪水だけでなく、大きく広げて見るべきだという、つまり東京の中小河川の将来像と書いてあるところに治水の事項しかなく、確か

におっしゃられるとおりでございますので、少し事務局の方でも研究してみたいと思います。

(都民委員) 都民参加ということで、行政だけでどこまでできるかというのは、おのずから見直してみしてほしい。そして、意識的にもう少し住民が役割分担を持つようことを、また、もっと地域住民の人たちの責任の分かち合いについて、もう少行政の方は考えてください。

(都民委員) それは、我々の方でも考えなければいけないことかも知れませんが

(都民委員) 内容的なことからいって川に親しむとか、総合学習のこととかというのは前回の会議のときに出ていたのを読みましたので、一応善福寺川の例を持ってました。子供たちの活動の写真集などを、回して、お話の間にちらつと見ていただければと思います。

(都民委員) 資料の8-1の4/7ところで先ほどの「東京都市型水害対策検討会を設置しました」とあります。そこではこの後に書いてある「河川・下水道の整備や、透水性舗装や、貯留・浸透施設設置のさらなる推進のハード対策に加え」とあります。しかし、これだけが出てきたわけではないでしょう。これは、あくまでも石神井川という川を対象にして見ているから、こういう検討会ではこういうのが出ましたよと言っているわけですね。

例えば都市計画局、あるいは下水道局では他の見方もあるのではないかという気がしますが、そういうのは一切出てなかったのですか。

(事務局) 都市型水害対策検討会の中で下水道は雨水のクィックプランという名称を使っているんですけども、緊急的に、重点的に整備しようということです。例えば下水管から雨水があふれる箇所を重点的に整備していこうというのが主たる対策として下水道局では考えています。

(都民委員) もう少し文言を入れて、都市計画とかについて書いたらどうかと言っていました。そうじゃなくて、ここでは石神井川に対してのことだからこれでいいのではないかと思います。要するにここでは石神井川の整備計画を話しているわけだから、そういう点ではこの文章でいいのではということですが

(座長) ここで一旦質問を打ち切らせていただきまして、資料—5の方の流域連絡会についての感想等に入らせていただきたいと思います。

(事務局) 12名の都民委員さんのうち、きょうの秋山さんのも合わせて10名から感想文をいただいております。このまま第I期のまとめの冊子の方に掲載させていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(座長) 第I期の流連のまとめの冊子でございますが、きょう委員の皆さんから出されましたご意見を踏まえて、第I期のまとめの案、この「案」を取らせていただきたいと思います。冊子のまとめとしては大体1ヵ月ぐらいを予定しておりますのでよろしくご理解の程、お願いいたします。

(座 長) それでは、次に第Ⅱ期の流連の開催予定についてお話を進めさせていただきたいと思います。

第Ⅰ期の委員さんの皆様にはぜひとも引き続いて委員をお願いしたいと思っております。したがって、これから事務局の方で説明します公募等につきましてはよろしく申し上げます。

(事務局) 「石神井川流域連絡会(第Ⅱ期)予定表(案)」でございます。現在第Ⅰ期を終わらせていただき、第Ⅱ期に入るわけでございますが、今後各区市さんに住民・団体公募の広報への掲載を8月20日から9月1日までの期間の中で、お願いをしているところでございます。

これは、「第Ⅱ期石神井川流域連絡会委員の募集について」ということで、公募委員の広報掲載文という形で各区市さんをお願いしています。

その後、選定委員会を経まして、第Ⅱ期の流域連絡会の第1回の開催は12月の月上旬に開きたいということで考えています。各区市さんには大変申しわけありませんが、よろしく申し上げます。

なお、座長からもお話ししたように、現委員の方々もよろしくお願ひしたいと、思っています。

(座 長) それでは、第Ⅱ期につきまして、皆さんがこれから検討していくということになったときに、何をしていくのか、という話もあろうかと思ひます。我々としましては、この石神井川整備計画ができましたら、その中で提案されている事項の1つでも多くを石神井川の現場に実現していきたいと思ひしております。関係者もいろいろございますので、時間もかかるようなこともあろうかと思ひますが、とにかく皆さんの熱意や思いを現場にひとつでも多く残していくことを第Ⅱ期の目標にしたいと考えています。したがって、引き続いて委員さんを引き受けていただければと、思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

(座 長) それでは、石神井川の流域浸水予想図、資料―7の説明を事務局よりお願ひします。

(事務局) それでは、会議次第の最後のページに折みでA3判カラーゼロックスを差し込んでいます「石神井川及び白子川流域浸水予想区域図」をご覧ください。

この浸水予想区域図につきましては、先ほども質疑の中でお答えさせていただきましたが、本年5月15日に公表しております。この公表につきましては、現在ホームページでもご覧いただけるようになっておりますし、5月28日にはプレス発表ということで、新聞各紙には資料を提供しています。

この浸水予想区域図については、前提となる条件がございます。それは、平成12年の東海豪雨と同じような雨を石神井川の流域に降らせた場合にどのような浸水が起こるかということを示した図でございます。これは浸水予想区域

だけを明示したのですが、今後は関係する区市さんの方でこれをもとにハザードマップの作成をさせる、という予定を聞いています。

浸水予想区域図については、現在下水道局と連携して作っているわけですが、今後とも石神井川以外に、あるいは白子川以外の他の河川についても順次このような浸水予想区域図を公表していく予定にしています。

なお、本日、A3判の小さな図面に縮小していますが、この大きな図面については第四建設事務所、もしくは関係する区市さんのところにございます。そこで閲覧できるようになってございますので、ご利用いただきたいと思います。

(座長) 最後に、本日の議題等についてご質問がありますか。

(都民委員) 「第Ⅰ期のまとめ」に追加していただけたらと思うのは、石神井川の練馬区内において意外と湧水の箇所が多いということです。ですから、石神井川の湧水や川を大切にしようねという、訴え方について工夫されたいかがでしょうか。

(都民委員) 第Ⅱ期流連の方向を少しお聞きできればと思いますが-----。

(座長) 先ほど述べましたように、城北公園等、河川と公園等の関係についても、検討していきたいと思っています。しかし、公園と、Ⅱ期を始めるに当たって細かく詰めておりませんので、これからというところがございます。拠点整備の一箇所とでも連携をしないと意味がないと思うんですね。ですから、もう考える時間は過ぎたと。極端に言えば今度のⅡ期は行動する時期だというように考えています。

最後に、これで第Ⅰ期の石神井川流域連絡会最終回を終わらせていただきます。2年間座長を務めさせていただきましたが、委員の皆様方には常にご協力を賜りありがとうございました。心からお礼申し上げます。

今後第Ⅱ期ということで再出発をいたしますが、引き続き委員をよろしく願いいたします。

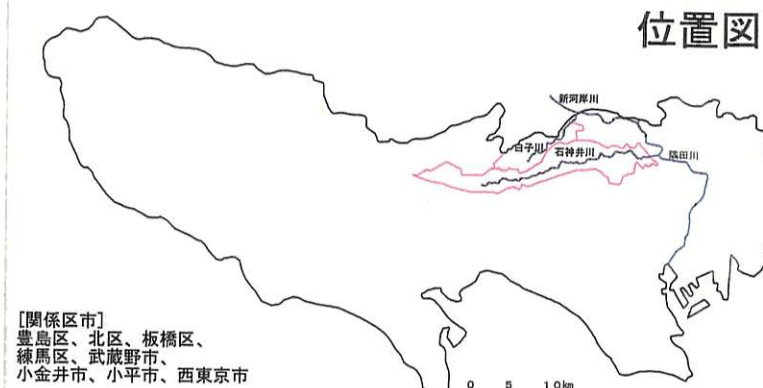
本当にありがとうございました。

石神井川及び白子川流域浸水予想区域図

※ この図は、原図（1/25,000）を縮小・複製したものです。

1. 石神井川及び白子川流域浸水予想区域図について
- (1) この図は、石神井川及び白子川流域の浸水予想区域と、想定される水深（最大水深）を示したものです。
 - (2) 流域の皆様には、洪水の可能性について知っていただくことにより、「緊急時の水防、避難」、「水害に強い生活様式の工夫」等に役立てていただくようお願いいたします。
 - (3) この浸水予想区域図は、現時点での石神井川及び白子川流域の河道整備状況、洪水調節池施設及び下水道の整備状況等を勘案して、平成12年9月に発生した東海豪雨の大雨が降ったことにより、石神井川及び白子川流域が浸水した場合に予測される洪水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。
 - (4) 洪水の予想される区域及びその程度は、雨の降り方や土地の形態の変化及び河川、下水道の整備状況等により変化することがあります。

2. 基本事項等
- (1) 作成主体 都市型水害対策連絡会（隅田川・新河岸川・石神井川・白子川流域）
 - (2) 作成年月日 平成15年5月15日
 - (3) 対象となる河川 荒川水系 石神井川、白子川
 - (4) 対象とした降雨 平成12年9月 東海豪雨（総雨量 589mm、時間最大雨量 114mm）
 - (5) 関係区市 豊島区、北区、板橋区、練馬区、武蔵野市、小金井市、小平市、西東京市
3. 図面の見方のポイント
- 一般的に河川沿いは低地であるため、浸水深が大きくなり注意が必要です。また、河川から離れていても、青・緑色で示される場所では、低地形のために浸水深が大きくなるので注意して下さい。



【問い合わせ先一覧】

東京都建設局河川部計画課	03(5321)1111 (代)
東京都下水道局計画調整部計画課	"
豊島区民部防災課	03(3981)1111 (代)
北区建設部河川公園課	03(3908)1111 (代)
板橋区土木部計画課	03(3579)2520 (直)
練馬区土木部維持課	03(3993)1111 (代)
武蔵野市総務部防災安全課	0422(51)5131 (代)
小金井市総務部防災交通課	042(383)1111 (代)
小平市生活文化部防災対策課	042(341)1211 (代)
西東京市環境防災部防災課	0424(64)1311 (代)

